

## 2 社会

### (1) これまでの課題

#### ア 平成 22 年度

- ・ 関心・意欲が持続しない生徒がみられたので、生徒の関心・意欲が持続するような指導を行う。
- ・ 新学習指導要領の移行にともない、第 1 学年から新学習指導要領の内容を学習計画に反映させる。
- ・ 学習意欲はあり、基礎知識を問うテストも合格はするが、それらを自分の既存知識として定着させることができない。

#### イ 平成 23 年度

- ・ 新学習指導要領の移行に伴い、昨年度、第 1 学年だけ新学習指導要領に基づいた学習指導を行ったが、本年度は第 2 学年の生徒も新学習指導要領に基づいた指導を行う。
- ・ 新学習指導要領の実施に伴い、評価の在り方も変わったので、新しい評価観に基づいた学習指導を行う。

### (2) 指導目標

#### ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 興味・関心を高めるとともに、基礎・基本の定着を図る。  
主体的に学習に取り組ませ、学力の向上を図る。
- ・ 2 学年 世界地理は移行過程も考え、学習の範囲を広げて指導する。  
歴史学習は現代につながる時期まで、背景も含めて学習させる。
- ・ 3 学年 基礎・基本の定着を図る。  
社会で起きている出来事に関心をもたせるとともに、学力の向上に努める。

#### イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 興味・関心を高めるとともに、基礎・基本の定着を図る。  
主体的に学習に取り組ませ、学力の向上を図る。
- ・ 2 学年 新学習指導要領の趣旨に基づいた学習指導を行う。  
ICT を活用し、生徒の興味・関心に基づいた学習指導を行う。
- ・ 3 学年 基礎・基本の定着を図る。  
社会で起きている出来事に関心をもたせるとともに、学力の向上に努める。

### (3) 指導の重点

#### ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 新学習指導要領を踏まえ、批判的思考を高める指導を行うとともに、持続可能な開発のための教育を踏まえた指導を行う。  
ワークシートを活用し、目標・指導・評価の一体化を図る学習指導を行う。  
生徒が主体的に問題に取り組み、学力を向上させる指導を行う。
- ・ 2 学年 小テストを行い、基礎的知識の定着を図るとともに、角度を変えた反復学習によって自分の知識として体得させる。  
歴史では、常に「なぜ?」、「どうして?」と考えながら学習させる。
- ・ 3 学年 社会的事象の基礎的・基本的知識を定着させる。  
地図帳や資料集などの教材を活用し、読解力や文章力を身に付けさせる。

「生きる力」に対応した学力の評価を目指し、定期考査の設問の質を高める。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 新学習指導要領を踏まえ、学習内容だけでなく、批判的思考を高める指導を行うとともに、持続可能な開発のための教育を踏まえた指導を行う。  
ワークシートを活用し、目標・指導・評価の一体化を図る学習指導を行う。  
生徒が主体的に問題に取り組み、学力が向上するような指導を心がける。
- ・ 2 学年 新学習指導要領を踏まえ、学習内容だけでなく、批判的思考を高める指導を行うとともに、持続可能な開発のための教育を踏まえた指導を行う。  
ICT を活用し、生徒の関心・意欲を高める指導を行う。
- ・ 3 学年 社会的事象の基礎的・基本的な知識を定着させる。  
地図帳や資料集など教材を活用し、読解力や文章力を身に付けさせる。  
「生きる力」に対応した学力の評価を目指し、定期考査の設問の質を高める。

(4) 授業改善に向けての具体的な取り組み

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 ICT を活用し、これまで以上に生徒の興味、関心を高める授業を行う。  
問題集への取り組み進捗状況表を活用し、生徒の主体的な問題集への取り組みを促す。  
批判的思考を高める指導を行うよう心がけ、言語力の育成を図る。
- ・ 2 学年 世界地理では、具体的な事象を通して興味をもたせ、各州の概観にも触れていく。  
歴史学習では、資料を豊富に使い多面的な視点からの学習を行う。
- ・ 3 学年 小テストを繰り返し行うことにより、基礎的、基本的知識の定着を図る。  
定期考査の中に受験にも対応できる問題を入れ、それに対応した学力を身に付けさせる。  
資料活用能力を高めるとともに、自分の言葉で表現できる能力を身に付けさせる。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 実物等の教材を用意し、より生徒の興味、関心を高める授業を行う。  
批判的思考を高める指導を行うよう心がけ、言語力の育成を図る。
- ・ 2 学年 ICT を活用し、より生徒の興味、関心を高める授業を行う。  
批判的思考を高める指導を行うよう心がけ、言語力の育成を図る。
- ・ 3 学年 小テストを繰り返し行うことにより、基礎的、基本的知識の定着を図る。  
定期考査の中に受験にも対応できる問題を必ず入れ、それに対応した学力を身に付けさせる。  
資料活用能力を高めるとともに、自分の言葉で表現できる能力を身に付けさせる。

(5) 平成 22 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

- ・ 学習に対峙しづらい生徒にどのように対応するかが課題である。
- ・ 生徒の興味・関心を持続させることが課題である。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

- ・ 1 学年 発言したり、質問したりすることができたのが一部の生徒であった。より多くの生徒が発言や質問ができるようにすることが課題である。

緯度や経度、地図帳の索引の引き方が分からない生徒に補充学習を行った結果、ほとんどすべての生徒が分かるようになり成就感をもった生徒が多く見られた。今後も、分からない点がある生徒に対して、積極的に補充学習を行うなどして、生徒のつまずきに対応した取り組みを行う。

- ・ 2 学年    どの項目も昨年度よりよい数値になっており、授業に慣れ、学習に取り組む姿勢もよくなっている。  
             毎年の課題である、「発言や質問」も昨年度より向上がみられる。  
             言語活動については、授業や試験を通して鍛えられつつある。
- ・ 3 学年    全体的に高い数値になっている。授業の受け方は 3 年生という自覚からかよくなっている。  
             「発言や質問」の数値は、他の項目と比べ数値が低い。自分の意見をはっきり表現できる授業づくりが必要である。

#### ウ 授業改善の手だて

- ・ 1 学年    授業評価の結果から、ワークシートに写真を入れたり、実物投影機を使ってテレビのモニターに写真を映したりするなど、視覚に訴えた授業を行うことが効果的であることが分かった。より一層、ICT を活用した授業を行う。
- ・ 2 学年    「あてはまらない」、「やや当てはまらない」という学習内容についていけなくなっている生徒への手だてが必要である。  
             学習したことを定着させる手だてが必要である。
- ・ 3 学年    学習のまとめを行い、基礎・基本を定着させていく必要がある。  
             ワークシートに必ず資料をいれ、考察させ発表させる。その中で発言や質問できる力を身に付けさせるなど、言語活動の充実を図る。

#### (6) 平成 23 年度 授業評価から授業改善へ

##### ア 前年度の授業評価の結果からの課題

- ・ 基礎的・基本的な知識や技能が十分に定着していない生徒が少なからず見られた。
- ・ 自分の言葉で答えを記述することが、得意でない生徒が少数ではあるが見られた。
- ・ 発言や発表の少ない生徒が見られる。

##### イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

- ・ 1 学年    自分の言葉でまとめたり発言したりできた生徒がいつも同じであったため、多くの生徒が発言できる機会を設けることが課題である。  
             考えたことやまとめたことを発表する機会があまりなかったため、時間をつくる。  
             授業内容をよく理解できたという問いに、約 10 %が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答しているため、手だてが必要である。
- ・ 2 学年    ワークシートを授業時間内に仕上げられる生徒が増え、授業への満足度が高まることが予想された。しかし、6 月頃から視聴覚室で授業を行えなくなり、ICT を十分に活用できず、授業内にワークシートを仕上げるできない生徒の数が増えた。今後は、ICT を十分に使える環境を整え、分かる授業を推進する。
- ・ 3 学年    「授業の受け方」は、しっかりと受けることができるようになっている。  
             内容についてこれない生徒は、減っては来ているが、手だてが必要である。  
             資料の読みこなしや自分の言葉でまとめることができるようになってきているが、発言をした

り発表をしたりすることはまだ不十分である。発言・発表の機会を増やす。

### ウ 授業改善の手だて

- ・ 1 学年 発言を促す働きかけを授業の中で根気よく行い、挙手した生徒がバランスよく発言できるよう工夫する。  
一つの単元が終わった後、新聞やレポートを作ることによって授業内容のまとめを行う。作ったものを発表する機会を設けていく。  
内容を理解できなかった生徒には、積極的に補充学習を行うなどして、生徒のつまずきに対応していく。
- ・ 2 学年 目標・指導・評価の一体化を図りながらも、学習がつまずいている生徒に対しての働きかけが十分ではなかった。個別指導の中で、授業につまずいている生徒に対して、さらに働きかけを行うよう努める。  
ICT を活用した学習指導をより一層推進する。  
ワークシートの最後に、自己評価と感想を書く欄を設けている。そこに本時の授業を通して分かったことを記述することによって、本時の授業の大切な部分を再確認させる。
- ・ 3 学年 小テストや試験前の補充教室で、学力の定着と、不十分な生徒への手だてをとる。  
レポートを課題にしていく。試験問題は自分の言葉で表現する部分を多くする。  
まとめる力と発表の機会を増やすため、1 週間に 1 度新聞の切り抜きをノートにして提出をさせ、コメントを書いている。また、1 時間に 2 人ずつ、授業の始めに発表をさせている。  
授業の展開では、毎時間、ほとんど全員が発言するような形で進めている。

## (7) 平成 22 年度 学力調査から授業改善へ

### ア 学力調査の推移

#### ・ 現 1 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
H22 年 6 月 学力調査	69.0%(77.8%)	62.1%(63.5%)	69.2%(75.0%)	67.9%(65.9%)

#### ・ 現 2 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
H22 年 6 月 学力調査	54.7%(63.4%)	58.6%(63.9%)	67.6%(70.3%)	65.6%(67.2%)
H21 年 4 月 学力調査	73.6%(75.1%)	44.1%(45.7%)	51.0%(52.0%)	47.7%(55.0%)

#### ・ 現 3 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
H22 年 6 月 学力調査	67.9%(65.3%)	62.5%(59.4)	68.7%(69.0%)	67.7%(60.8%)
H21 年 4 月 学力調査	74.2%(77.5%)	51.0%(59.7%)	58.6%(62.4%)	47.8%(52.4%)
H20 年 10 月 学力調査	58.2%(58.9%)	50.2%(51.8%)	49.2%(49.9%)	61.1%(69.7%)
H20 年 4 月 学力調査	78.4%(80.1%)	67.9%(69.4%)	59.8%(65.6%)	64.6%(67.6%)

### イ 結果分析と考察・課題

- ・ 1 学年 全国平均と比べて、「知識・理解」の正答率は高かったが、「関心・意欲」「社会的な思考・判断」「資料活用・表現」は低かった。  
教科の正答率は、全国平均を上回っていた。基礎的な内容の正答率も、全国平均を上回ってお

り、基礎的な内容はおおむね理解している生徒が多い。

期待正答率と比べると、資料の活用、日本の気候、安土桃山時代から江戸時代の正答率が低かった。

- ・ 2 学年 どの観点も平均値を下回っている。

領域別にみると、1 年生の前期に学習したことは正答率が低くなっている。学習したことの定着が課題である。

基礎的な部分は期待値に近いが、活用部分が低くなっている。学習内容を応用して考える力が必要である。

- ・ 3 学年 1・2 年次と比べ、数値が上がっている。また「関心・意欲」「思考・判断」「知識・理解」が全国平均を上回っているが、「技能・表現」は下回っている。

教科全体の正答率は、全国平均を上回っていた。基礎的な内容も全国平均を上回っていた。

解答傾向をみると、基礎的な部分と比べ活用部分が低くなっている。授業を通して、学んだ事柄を活用する力が必要である。

近現代の歴史の正答率が、他の領域と比べて低かった。

#### ウ 課題解決のための手だて

- ・ 1 学年 ワークシートの中に、資料活用の技能を積極的に取り入れた内容を入れて指導を行う。

日本の気候については、授業の中で、雨温図や主題図の読み取りを行う。

- ・ 2 学年 小テストなどを実施して、基礎的な知識の定着を図る。

レポートなどを書くことにより、学習知識を自分のものにし、活用できる力を付けさせる。

- ・ 3 学年 プリントに資料を積極的に載せ、判断したり発表したりする時間をとり資料活用の力を付けさせる。

近現代の歴史の正答率が低いた。公民的分野と関連付けながら授業の中で復習させる。

#### (8) 平成 23 年度 学力調査から授業改善へ

##### ア 学力調査の推移

- ・ 現 1 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
H23 年 5 月 学力調査	65.8%(65.1%)	56.6%(57.4%)	67.1%(64.9%)	63.1%(64.5%)

- ・ 現 2 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
H23 年 5 月 学力調査	59.1%(53.9%)	61.7%(57.7%)	67.1%(64.9%)	62.6%(63.7%)
H22 年 6 月 学力調査	69.0%(77.8%)	62.1%(63.5%)	69.2%(75.0%)	67.9%(65.9%)

- ・ 現 3 学年本校（全国平均）

観点	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
H23 年 5 月 学力調査	48.3%(55.5%)	48.6%(53.4%)	55.4%(60.9%)	51.3%(58.2%)
H22 年 6 月 学力調査	54.7%(63.4%)	58.6%(63.9%)	67.6%(70.3%)	65.6%(67.2%)
H21 年 4 月 学力調査	73.6%(75.1%)	44.1%(45.7%)	51.0%(52.0%)	47.7%(55.0%)

##### イ 結果分析と考察・課題

- ・ 1 学年 全国平均と比べて、「技能・表現」の達成率は高かったが、「関心・意欲・態度」「思考・判断」

「知識・理解」は全国平均よりも多少低かった。

正答率は、全国平均を下回っており、基礎的な内容の正答率が低い。しかし、「活用の技能・表現」の正答率は全国平均よりも 5.6%も高かった。

期待正答率と比べると、「政治」部分の正答率が低かった。

- ・ 2 学年 昨年度は、「知識・理解」は、全国平均を上回っていたが、本年度は全国平均を下回っている。  
昨年度は、「関心・意欲」、「思考・判断」、「資料・活用」が全国平均を下回っていたが、本年度は全国平均を上回っている。

基礎的・基本的な事項の定着がやや不十分なので、これらの事項が十分に定着できるよう努める。

- ・ 3 学年 これまで学習したことが、その時は理解していても定着していない。  
文章で書く部分の正答率が低い。  
グラフや表を読み取って考えることが苦手である。

#### ウ 課題解決のための手だて

- ・ 1 学年 小テストなどを実施し、基礎的な内容を確実に定着させる。  
授業においては、歴史的な出来事の原因などをしっかり考えて、発表させる。  
新聞などを通して、時事的なニュースに関心をもたせる。
- ・ 2 学年 定期考査の再テストを必ず行う。  
一度定期考査に出題した設問のうち、正答率の低い問題は再度出題する。  
国名など、基礎的・基本的事項の小テストを実施する。
- ・ 3 学年 重要な部分は小テストで確認していく。1, 2 年の復習をテキストを使って 4 月から計画的に行う。  
新聞切り抜きをし、要約と意見を書かせ、毎時間 2 人ずつ発表させる。  
授業の中で、資料を使い、多くの生徒に読み取れることを答えさせる。

### (9) 平成 22 年度 研究の成果と課題

#### ア 「学力調査」について

- ・ 1 学年 ワークシートの中に、雨温図や主題図の読み取りなど、「資料活用の技能」を高める問題を積極的に取り入れ、雨温図や主題図の読み取りができるようになった。  
地図帳の索引の引き方や緯度・経度を使った位置の読み取りなどを積極的に行い、地図帳の索引の引き方や緯度・経度を使って位置を示すことをほとんどの生徒ができるようになった。
- ・ 2 学年 学習したことの定着のため、小テストを実施し、不合格者には再テストを実施した。  
冬休みの宿題としてまとめプリントを出し、確認テストを行い、学習したことの定着を図ることができた。
- ・ 3 学年 プリントに資料を載せ、資料の読み取りの時間を多くとった。  
プリントを定期的にチェックし、読み取りが不十分な生徒に対し個別の指導を行った。

#### イ 「授業評価」について

- ・ 1 学年 年表の活用の仕方が苦手な生徒を、放課後等を活用して指導を行い、ほとんどの生徒が年表を読み取ることができるようになった。  
緯度・経度を使った位置の読み取りが苦手な生徒に対して放課後等を活用して指導を行った結果、ほとんどの生徒が位置の読み取りができるようになった。

- ・ 2 学年 毎時間の授業の始めに前時の復習を行い、学習内容の定着が図れた。  
歴史の出来事や、事柄を自分の言葉で書く問題を多く取り入れている。記号等ではなく、書く部分がかなり多い問題であるが、60 点から 70 点の平均点を取った。
- ・ 3 学年 発言する機会を多く設け、グループ学習を行ったり、分かりやすい質問を工夫したりしたことで、生徒の発言力が高まった。  
資料を用意し、自分の意見を書く時間を多く確保することができた。  
まとめプリントや質問の投げかけで、振り返りながら授業を行い、学力の定着を図ることができた。

#### ウ 今後の課題

- ・ 1 学年 発言したり、質問したりする生徒があまり多くない。発言や質問をしやすい授業を心がける。  
単元の学習内容をどうまとめさせたり、評価したりするかが今後の課題である。
- ・ 2 学年 学習したことが、自分の頭の中で咀嚼されて自分のものになっていない生徒が多い。その結果、応用もきかない状況が見られる。身近なことに置き換えたり、違う角度から考えたり、他教科と連携したりしながら教材を提示したりする工夫を行っていく。  
覚えることが苦手である生徒に対して繰り返し小テスト等で確認していく。